

日本ボーイスカウト大阪連盟 豊中地区広報

とよなか

第90号

平成25年12月7日

発行

日本ボーイスカウト大阪連盟

豊中地区



第16回日本ジャンボリー特集



大阪式隊トピックス（大阪式隊隊長報告）

大阪2隊 隊長 金澤 聡 (T14)

ジャンボリー準備期間中は、私自身がなかなか帰阪することができず、リーダー集会等もままならない状態で、副長の皆さんとはメールでやりとり。個人的には、大変不安な状態で、ジャンボリー当日を迎えることとなりました。

出発（7月30日）

雨男の大宮副長登場と同時に大雨。前途多難を思わせる出発式となりました。あとで、他の大阪地区の方にお伺いしましたが、雨は豊中地区だけだったようです。私も、原隊では雨男と言われていますが、上には上がっているものだと感服しました。

第一日目（7月31日）

大阪連盟編成隊が会場一番乗りで、かつ大阪式隊が大阪連盟の先頭を走っていたため、アルマジロ・サイトに到着するまでのバス車内で、広報の取材を受けることになりました。スカウト達はまだ目覚めていなかったのか、恥ずかしさからなのか、テンションが上がらず、日本連盟公式 youtube に数秒だけアップされる結果に。残念！この日は、事前訓練キャンプ、事前集会で打合せた内容に基づいて「設営」。多少の設計ミスはあったものの、何とか無事に設営が完了して、一安心。私はとて言えば、少し緊張しながら、隊長会議に出席。我々のサイトは外国隊が半数近く占めていたため、何と「配布資料、質問も含めて、all 英語で隊長会議」に愕然としたと同時に、大丈夫かという不安が…。

第二日目（8月01日）

この日も、前日に続いて「設営」と、夕方からは「開会式」。開会式では、サプライズ演目として、航空自衛隊(山口基地)の歓迎飛行。開会式終了後から、売店解禁。この日は炎天下ということもあって、大盛況で、ペットボトルを氷で冷やすのが間に合わず、スカウト達は、あまり冷たくない炭酸飲料やスポーツドリンクをゴクゴクと飲んでいました。

第三日目（8月02日）

今日から、いよいよプログラム開始(「GDV」「Free」)。夜は滋賀2隊との交流会。「穴を掘って排水」という指示でしたが、全く水が引かないことが判明。サイト内が排水用の穴だらけに…。

第四日目（8月03日）

今日は、「広島ピースプログラム」。朝早くから起きて、バスで一路広島へ。スカウト達は、修学旅行で来ているため、原爆ドームにもあまり興味がない感じで、冷房の効いたホールでの「朗読会」では、うたた寝状態。この日の隊長会議から、配布資料に日本語表記が…。やっぱりなという感じでした。

第五日目（8月04日）

今日は、「宗教儀礼」「皇太子殿下サイト訪問」「アリーナショー」。皇太子殿下がアルマジロ・サイトを訪問されることで、スカウト達も朝から変なテンション。14時頃、皇太子殿下のサイト訪問間際に、突如ゲリラ豪雨。30分程度で止みましたが、50mm程度の雨量で、マーキーが飛ばされる程の風も吹き、呼吸が苦しい感じの、今までに体験したことがないような雨でした。また、この豪雨の影響で、大阪式隊サイトの約1/4が水没。両隣のサイトは、水が浮いている感じもなかったため、貧乏くじを引いたかなと諦めモードでしたが、膝下まで水没したサイトがあることを聞き、まだマシな方だと気持ちを新たにしました。スカウト全員で、サイト内の水をある程度掻き出した後、「アリーナショー」へ。山口活性学園のライブに癒されました。「アリーナショー」後、地元テレビの取材を受けることになりました。尺が足りなかったようで、「困ったときの大阪」ということらしいです…。こちらは、地元テレビでしっかりと放映されていました。

第六日目（8月05日）

今日は、「CRC」「Free」。夜は、シンガポール、台湾、栃木隊との合同交流会。砂が山積みされているのを発見したので、これ勿怪の幸いと、大量の砂をサイトに運び込み、復旧作業。サイト復旧用にと、スカウト達が作成してくれた「トンボ」が大活躍。ジャンボリーニュースにも載りました。夕方頃、大雨警報が発令されたので、未使用のテント3張を急遽立てましたが、雨は全く降らず。班長会議では、合同交流会での大阪武隊のスカウトが大人しかったことで、大反省会。

第七日目（8月06日）

今日は、「COS」。夜は、愛知23隊と交流会。科学に対する興味が少ないスカウトは、午後からサイト内で休息していました。逆に、科学に興味のあるスカウトは、プログラム時間ぎりぎりまで楽しんでいました。14時頃から、大阪武隊副長全員が「山口活性学園」の最後のステージに…。隊長一人で寂しく留守番しました。交流会は、昨日の班長会議での反省を活かして、しっかりと楽しめたようです。門限の22時をオーバーするぐらい…。

第八日目（8月07日）

今日は、「Free」「閉会式」。昼過ぎに、ゴミ分別ができていないということで、緊急隊長会議が召集され、隊長全員でゴミ山を分別。外国隊に浸透していなかった感じで、何のために英語で隊長会議していたのかと少々憤慨。この日も、広報主体の「隣のサイトの晩ごはん」の取材を受けました。こちらも、youtube にアップされていました。閉会式直後、大阪武隊スカウト全員のコメントが入ったTシャツをサプライズプレゼントされました。非常に嬉しくて、夜遅くまで一人で感傷に浸っていました。

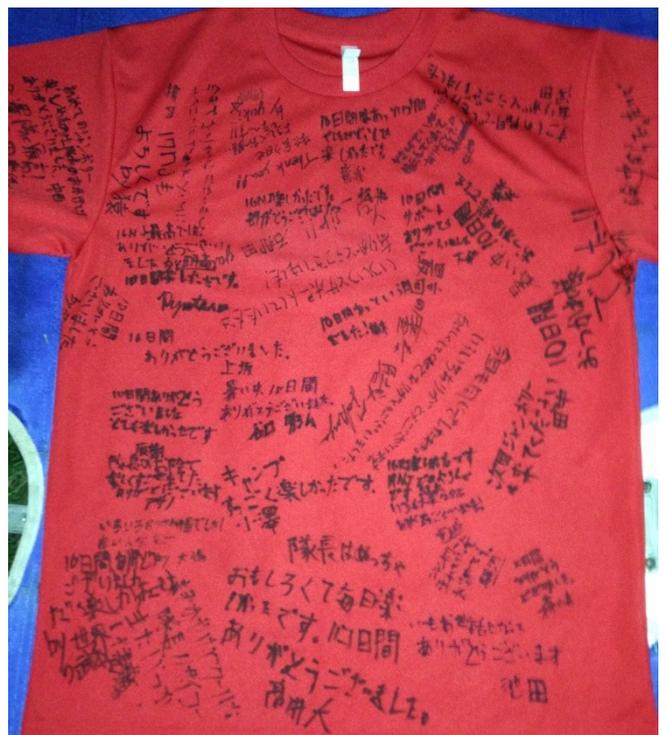
第九日目（8月08日）

今日は、「撤営」「点検」「退場」。退場前の記念写真を見て頂ければわかりますが、スカウト全員が充実した、良い笑顔だと感じました。手前味噌になりますが、隊長として最低限の役務が果たせたかなと思いました。

初日から熱中症患者が出ましたので、どうなることかと非常に心配しましたが、その後は発症者無。昼間はかなり暑かったのですが、朝方は少し寒いぐらいの気温だったため、たつぷりと睡眠が取れたことと、小沢スペシャルドリンク（薄めたポカリスエット+塩）を毎食飲ませたことが一因だったかもしれません。逆に寒かったことが原因で、風邪は複数名発症しましたが…。

大きな事故、怪我もなく、無事にジャンボリーを終えることができました。なかなか帰阪することができず、メールでのやり取りだけで色々と動いて頂いた副長の皆様、本当にありがとうございました。

また、「大阪三隊の皆様」「ISTメンバーの皆様」「準備委員会メンバーを含めた各団関係者の皆様」「豊中地区関係者の皆様」「大阪連盟関係者の皆様」の多大なるご協力のお蔭だと感謝いたします。本当にありがとうございました。



第16回日本ジャンボリーに参加して（大阪参隊隊長報告）

大阪3隊 隊長 岡野 富雄(T16)

7月30日から8月8日まで開催の第16回日本ジャンボリー(16NJ)参加にあたり、スカウト・リーダー全員が16NJを楽しみ・無事帰ることができましたことに感謝いたします。また参加にあたりご支援いただきました地区関係者及び準備室の方々にお礼申し上げます。

16NJ出発前の7月28日、山口・島根県にて大雨災害発生によりおおきな被害が出ました。このような災害の後ですが山口県の「きらら浜」は被害が少なく、山口での日本海側と瀬戸内側(きらら浜)の気候の違いを知る結果となりました。

わが大阪3隊は全体で6つあるサイトのうち「アルマジロ」(A)サイトに配属となりました。Aサイトは全体が50隊のうち外国隊が20隊のエリアです。出発前は国際交流しやすいが文化・習慣の面でどこまで調和できるかが隊長として心配でした。

現地に着いて、8/1朝礼をしたとき周りの旗が外国の国旗だらけだったことにまずびっくりしました。ここは外国かと思う状況でした。

わがテントサイトの隣の国は、イスラエルとモンゴルでした。いろいろ小さな問題もありましたが、スコップ・のこぎり・缶切り・調味料などの貸し出しをとおして、また彼らの作業を手伝ったり・会話している状態を見たり、また交流したりして楽しく相手の文化・習慣を感じることができたのではないかと思います。これはスカウトにとってよい経験になったと思います。

隊長会議はすべて英語で行うとの方針で実施されました。7/31初日は英語で行われ、二日目以降は少しずつ和英併記の資料が配られ、後半は重要な内容については日本人隊長のみ集まって調整が行われるように変化しました。出席は次回を担う副長にもこれからの経験として交代で参加してもらいました。

生活面では、8/3場外プログラムとして「広島ピースプログラム」に参加したこともあり、前半の疲れも消え(バスの中でゆっくりした)、期間全体をとおして元気に過ごすことができましたと感じます。

8/4は日中のゲリラ豪雨に遭遇しました。みんなでターフの支柱を押さえたり・フライの雨を落としたりしてどうにかしのぎました。場所によっては地面に水たまりができたところがありましたが、当サイトはあまり被害がなくほっとできる状況でした。

周りの隊は復旧作業をしているところもありましたが、どうにかアリーナショーに参加することができました。

その夜から帰るまで「カエル」が元気に水たまりで鳴いていたのが印象的です。

心配していたカセットコンロ(ガス)使用による班炊事もなべが汚れないこともあり、楽しい調理のひとつとなりました。火力は問題なかったです。

食事に関しては、昼食として配給の菓子パンは「ちょっとあきたかな」の感想です。

生活雑排水はサイト内に土壌浸透させることになっていましたが、ほとんど浸透しませんでした。雨のあとに水たまりが発生したことが物語っています。今後は排水設備が必要です。一部の外国隊は習慣の違いもあるので、散水は止めてもらいたいです。また夏場の狭いサイトでの排水には衛生上からも問題があります。

最後に8/7閉会式がありました。従来の式典とはちがいシンプルなものでしたが、最後の花火がきれいでフィナーレを気持ちよく迎えることができました。

その日の夜空は、夏の星から秋の星に代わっていくのがよくわかりました。

8/8は天気にも恵まれ16NJ会場で弥栄を全員で唱和して、一路豊中に出発することができました。

降車地点の豊中役所前では「左に曲がらないで」「きらら浜に戻って」などの声が出ていて、みんな本当に楽しんで思い出に残る最高の16NJになったのだと思いました。

きらら浜 ありがとう！

アルマジロ・サブキャンプ

A29	A01 台湾1	A02 東京19	A03 オーストラリア7	A04 宮城	A05 鳥取1	A06 USA OK451 USA 極東	A07 山形1	
	A08 東京18	A09 タイ1	A10 福島2	A11 山口4	A12 岩手1	A13 香川1	A14 秋田1	
	A15 台湾2	A16 青森1	A17 栃木5	A18 愛媛3	A19 スコットランド*	A20 山梨1	A21 岡山1	
	A22 愛知28	A23 台湾3	A24 島根1	A25 UK GME	A26 愛知29	A27 シンガポール	A28 茨城6	
	A30 タイ2	A31 埼玉1	A32 台湾4	A33 千葉3	A34 LA379 LA738	A35 大阪2	A36 香港1	
A49	A37 フィリピン ベトナム	A38 群馬3	A39 スリランカ	A40 徳島 高知	SC広場			Hub広場
	A41 東京1	A42 韓国1	A43 神奈川2	A44 イスラエル				
	A45	A46 愛知30	A47 北海道1	A48 大阪3				
	A50	A51 韓国2	A52 東京2	A53 マカオ・ブラジル モンゴル				

サイトの状況により変更することがあります



参加スカウト・リーダーの感想

16NJ感想

大阪2隊サブレット班 中西大和(豊中第2団)

僕は、ジャンボリーで初めて体験したことがたくさんありました。特に印象に残っているのは、海外のスカウトとの交流です。まず、最初にシンガポールの人とワッペンを交換したのを皮切りに、香港や台湾、韓国マカオ、バングラデシュの人々とワッペン、ネッカチーフ、チーフリングなどを交換しました。最初、僕は海外の人々が何をしゃべっているのかがほとんど分からなかったけれども、学校の英語の授業で習った事を当てはめていったら、段々分かるようになってきました。でも、中には英語をあまりしゃべらない人がいて、ジェスチャーで頑張りました。逆に相手が日本語をしゃべってくれることもありました。その人はとても日本語が上手で、最初日本人かと思いましたが、香港出身と聞いてやっと分かりました。

しかし、僕はもっと重要なことを今回のジャンボリーで学んだと思います。それは、日本語や英語など言葉が通じなくても、みんな仲良くできるという事です。これから先、未来にどんな事が起きるか今は、分からないけれど世界中の人と仲良くしていきたいです。



「9泊10日」

大阪2隊サラブレッド班 森嶋知樹(豊中第2団)

僕は7月30日から8月8日の10日、ジャンボリーに参加していました。10日間であくさんの思い出ができましたが、特に印象的だった思い出が三つあります。

一つ目は、プログラム間やフリータイムにした外国スカウトとのグッズ交換です。僕は今回のジャンボリーで、初めて外国スカウトの人と会いました。最初は言葉も分からないので、上手に出来るか不安だったんですけど、外国スカウトの人達から声をかけてもらえて、身ぶり手ぶりでなんとか交換することができました。また、次長の石なださんが通訳をしてくれたので、ちょっとした会話も出来ました。

二つ目は、あまりいい思い出ではないのですが、アリーナショー直前におきた豪雨です。僕は今までキャンプ中にあんな豪雨にあったことはなかったので、最初はただ呆然としていたし、もう帰りたいと思いました。しかし、サイトの皆で水をくみ出したり班長たちの協力で何とか生活できる程度までは水を埋めました。

三つ目はその豪雨の後にあったアリーナショーです。雨のせいで途中参加になってしまったし、地面もぐちゃぐちゃだったので、最初はテンションが全く上がりませんでした。しかし、各地方のパフォーマンスや、ご当地アイドルの『山口活性学園』のライブを聞いている内に、しだいにテンションが上がっていき、最後は大盛り上がりになりました。

今回のジャンボリーでは、これらの様な楽しい思い出がたくさんありましたが、その一方で調理やロープ結びといった技能の低さも感じました。9月からは、大田班長がベンチャー隊に昇進し、僕がカモメ班の班長となります。なので、技能や行動力を身につけて、カモメ班の班長として頑張りたいと思っています。



「初めてのジャンボリーで学んだこと」

大阪第2隊 塩田 タオ(豊中第5団 BS隊)

僕は、今までこんなに長い長期キャンプはやはり初めてでした。なので、不安もありました。「他の団や隊と仲良くなれるのか」「言葉も通じない外国人と交流はできるのか？」など色々不安もありながらの出発でした。でもフリーの時間に他のサイトなどを歩いていると、シンガポール隊の人が言葉はわからないけど声をかけてくれて、早速交換をしました。あの時はすごく嬉しかったです。中にはサイト内へ入れてくれて、外国のお菓子を食べたりお話をしたりと楽しかったです。途中で大雨が襲ってきた時は、なんと隣のシンガポール隊の方々も助けに来てくれて、すごいなあと思いました。ジャンボリーで学んだ事、それは『スカウトはみんな仲間』です。前々から知ってはいましたが、今回の大雨の時だって、交流の時などで仲間なんだってことがわかりました。

「ジャンボリー」

大阪2隊 竹本 了介(豊中第5団BS隊)

7月30日の夜からバスに乗って、8月8日までジャンボリーに行きました。

集合は7月30日の夜10時に豊中市役所になっていました。ぼくは幸い、豊中市役所の近くだったので、すぐに着きました。みんなが集まり、隊長の話を聞いてバスに乗込みました。

みんなは、早く寝たみたいだけど、隣にいた武本君がじゃましてきて、ぜんぜん眠れませんでした。なんとか寝て目が覚めると、山口県のジャンボリーのメインパーキングに着いていました。何と僕たちは一番最初にきたみたいでした。バスから荷物を降ろし、自分たちのサブキャンプ(アルマジロ)のサイトに着いた時は、何にもないただの原っぱでした。

フライやテントをたて、一日がすぎ、次の日開会式をやりました。団でやっている時の開会式に比べて、ジャンボリーはとてますごかったです。けど、とても暑かったです。

サイエンスや宇宙開発村もいろいろと体験できてとても良かったです。

僕たちがこのジャンボリーに来てから4日ぐらいたったころ、いつものようにだらだらしていたのですが、急に雲が厚くなって暗くなり、雷が鳴り始めました。僕たちが焦りだしたと同時に、雨がたくさん降ってきました。僕たちはゲリラ豪雨にあったみたいでした。ゲリラ豪雨のせいで、フライやテントが倒れ、荷物が水浸しになった人もいました。しかし、その後はアリーナショーだったので、遅れて行きました。すごく残念な気持ちでした。

けどやっぱり、最後の閉会式は最高でした。歌を歌ったり、ダンスを見たり、花火を見たり、数えきれない程のたくさんの思い出がよみがえった閉会式でした。このジャンボリーで作った友達や思い出を忘れないように、今後生きていきたいです。ジャンボリーはすごく楽しかったです。

「16NJに参加して」

大阪第2隊 ビビンバチャーハン班長関野 昂八(豊中第7団VS隊)

今回、前回15NJに引き続き、第16回日本ジャンボリーに参加しました。前回は次長という形で参加しましたが、今回は班長という立場で行かせていただきました。そして16NJは班長やベンチャーの存在がどれほど大きいかを思い知らされました。班長としては、自分の班をきっちりまとめ、それとともに他の班をまとめたり、隊長や副長の補佐をしたり大変でした。ベンチャーとしては、交流会の予定を立てたり、個人個人の交流を深めたり、スカウトオウンの実施など、やることがいっぱいありました。

今回は前回と違い、友達も増えました。15NJでは5人くらいしか出来ませんでした。16NJでは5人では収まらないほどの人数と友達になりました。東京や愛知、福岡、滋賀など、国外ではオーストラリアや台湾の人たちなどいっぱい出来ました。やばいです。

今回の17NJ・23WSJには絶対行きます。出来ればスカウトがいいですけど、多分ISTリーダーのどちらかやと思います。それであっても行かせてもらいます。もっと多くの友達を増やしたいですし、今回出会った友達とも約束したので、バイトも有休使って休みます。なので豊中地区のリーダーの皆さん。次の17NJ・23WSJに僕を行かせてください。お願いします。今回はすごく楽しかったです。

まず、帰って来て思った事が2つあります。それは、「楽しかった！」という事と、「疲れた…」という事です。ジャンボリーで過ごした9日間を楽しめたし、暑さで倒れたり気分が悪くなる事もなくてよかったです。でも、家に帰った瞬間疲れが一気にドーンときて、すごく眠くなりました。そのお陰で、その夜はぐっすり眠れました。

僕が、16NJ で一番楽しかったのは集中豪雨です。雨の日のテントやタープをどうすればいいのかが分かって、さらに実践出来たので良かったです。ちょうど暑くて死にそうな程だったので、良かったのかも知れません。でも、皇太子さんが来る日だったので退場の時の挨拶でしか見られなくて残念でした。でも、最終日の前の夜にきれいな花火を見る事ができたので良かったです。



「第16回日本ジャンボリー」

ぼくは、7月30日から8月8日までの間、第16回日本ジャンボリーと第23回太平洋地域ジャンボリーに、山口県のきらら浜に行きました。

まず1日目には設営をやりました。バスから荷物を持ってくる時がしんどかったです。

2日目には開会式がありました。

4日目には広島ピースプログラムで広島市の平和祈念公園に行きました。午前中は朗読を聞きました。いろいろな貴重な話を聞いて本当に良かったです。この一日で改めて平和の素晴らしさがわかりました。

5日目の午後に寝ていたら急に起こされて何だと思っていたら、急に雨が降り出して、勢いがどんどん増して集中豪雨になりました。その時に、シンガポール隊の人が助けてくれました。この集中豪雨で班サイトの一部が水に浸かってしまい、バケツなどを使って、水を外に出しました。バードサイトの一部はひざまで水に浸かっていたそうです。

7日目にはサイエンスプログラムで、ハヤブサのブースを見ました。楽しかったです。

8日目には午後から撤営をしました。暑かったのとでもしんどかったです。そして夕方には閉会式がありました。花火がとてもきれいでした。とても楽しかったです。

第16回日本ジャンボリー感想文

大阪2隊 植木 昂(豊中第14団)

ぼくが大阪2隊のみなさんと会ったのは3月31日でした。ぼくたち14団は、高井班長のふくろう班でした。その日から2隊3隊の集会、5月4日から6日までは、能勢の「わっぱる」で事前訓練キャンプ、壮行会結隊式もありました。

出発の日は7月31日です。21時に豊中市役所を出発しました。3回ぐらいSAで休憩を取りながら朝山口に到着しました。僕たちのサイト「アルマジロキャンプ」に歩いていきました。それからまずタープを5つたてました。そのときは、風が強くしかも地面が固くペグをさしてもすぐぬけるから、むずかしかったです。次に、テントをたてました。いつものドームテントとはちがうタイプだったのでむずかしかったです。そしてベッドをたてました。ベッドはぜんぜん固くなくやりやすかったです。

次の日は開会式がありました。開会式は52カ国の国旗と47都道府県の連盟旗が入場しました。いろんな偉い人の話がありました。その日はふくろう班が当番班で夕食はふくろう班が作りました。3日の日は広島ピースプログラムがありました。バスで広島までいきました。原爆ドームや原爆資料館は昨年修学旅行で行ったので2回目でした。バスで帰るともうへとへとでした。信仰奨励の日の午前中は信仰奨励を見て帰るときは皇太子さんがくるのでスタッフやSPにとめられたりして遠回りして帰ってきました。

午後からは大雨と強風でタープが倒れてサイトに水が溜まってたいへんでした。途中からアリーナショーを見ました。皇太子殿下と内閣総理大臣の安倍さんが来ていました。そのあとは横浜カラーチーム隊の演技はすごかったです。ですが関西ブロックの意味不明な演技はよくわかりませんでした。とくに大阪の…。5日・6日はサイエンスなどがありおもしろかったです。7日の撤営は再販するのできれいに拭くのが大変でした。閉会式では、「なついろ」が来て、昨年のお名探偵コナンの主題歌「君の涙にこんなに恋してる」などを歌っていました。そして今年の第16回日本ジャンボリーの大会旗が再来年の山口県きらら浜で開催される第23回世界ジャンボリーの大会旗に交換されました。

そして夕方豊中市役所に到着しました。もうこのメンバーで集まらないのが残念です。できればもう一度大阪2隊で集まりたいです。第16回日本ジャンボリー、第30回アジア太平洋スカウトジャンボリーはとても楽しかったです。

16NJ 参加感想文

大阪2隊 韓国風ビビンバチャー班 大和 典秀(豊中17団)

今回、ぼくは、初めて日本ジャンボリーに参加しました。

1日目は、ほとんどせつえいで、ほかの班ともタープなどをはり、その後開会式では、開会宣言があり、いろいろな、出し物があしました。

2日目は、午前、GDVがあり、赤十字のブースなどに行き、午後は5時ごろまでプラザにいました。

3日目は、朝からバスにのってDVDを見ながら広島に行き、平和記念資料館の見学をして、朗読会で被爆体験をききました。

4日目、文化交流日は、キリスト教に行き、キリスト教のことをききました。そして、サイトにかえってすこしするといきなりの、豪雨たいへんでしたがすこしたのしかったです。その後、と中参加でしたが、アリーナショーにも参加しました。

5日目はカルチャーに参加しました。

6日目はサイエンスで建物の構造についてまなびました。

7日目は、閉会式があり山活や夏いろなどゲストがきました、そして最後は、花火がうちあがりきれいでした。

7日間で外国人やほかの団にも友人ができすごくよかったです。

16NJ 参加感想文

大阪2隊 韓国風ビビンバチャー班 高木 想太(豊中17団)

いろいろな事があった。時には苦しく、時には楽しく。思い出は、たくさんある。でも、その中で一番印象に残ったのは、「閉会式」。それは、だれもが予想できなかった、楽しいひと時だった。午後7時、16NJで、みんなが期待している中でもトップクラスの行事が始まった。一番最初は、52ヶ国の国旗が、ステージ上に上がった。今思ってみれば、あのしゅんかん、世界は広いという事を、新めて実感した。次に、いろいろな色の旗で演技するだしものが始まった。きれいな歌に合わせ、旗がかれいにふられる。終わった後の拍手の大きさといったらとてつもなかった。それから、ぼくがとてもすごいと思ったものはただ一つ、ゲストの「なついろ」だ。この「なついろ」のみなさんは、あの有名な名探偵コナンのテーマソングになった「君の涙にこんなに恋してる」を聞いた時は、へ～と思った。そして、終わりには、アンコールに答えてくれて、16NJの大会ソングを歌ってくれた。それで思わずぼくたちもいっしょに歌いながらおどってしまった。それが終わると急に花火が上がり、ぼくたちはかん声をあげた。その花火は10分くらい続き、一番最後の大きな花火とともに、幕を閉じた。帰りのバスにのっている時、ぼくは思った。8泊9日なんて早いもんだな。でもその8泊9日と日にちの中に、とてつもなく大きな思いががっまっている。ぼくは、忘れない。この楽しかった16NJのことはぜったいに、「ボーイスカウト」に感謝を、「16NJ」に感謝を、ありがとう。



16NJ 参加感想文

大阪2隊 韓国風ビビンバチャー班 田中 音(豊中17団)

僕が16NJに行って楽しかったことは、アリーナショーです。アリーナショーの直前、いままで見たこともない真っ黒の空が広がっていた。その直後、すごい勢いで雨が降って来ました。たちまちタープの下には5cmくらいの深さの水たまりができました。そんな時、隣のサイトのシンガポールの人や韓国の人が「何かやることはありませんか」と言ってくれました。外国のスカウトの皆さん本当にありがとうございました。その後、みんなでたまった水を捨てていると、自衛隊の飛行機が飛んでいた。時計を見ると、もうアリーナショーが始まっていました。アリーナショーの方はすごく盛り上がり楽しかったです。そして、今は、もう一度16NJに行きたいと思っています。16NJ本当に楽しかったです。23WJも、中学3年になりますが、絶対に行きます。

16NJ 参加感想文

大阪2隊 韓国風ビンバチャー班 山田 一博(豊中17団)

16NJに行って一番大切だなと思ったことは、英語を話せないといけないということだ。活動中外人に話しかけられても何も答えることができなかつたことがあつたからだ。でも日本人同士でいろんな所の人と会話することができた。違う都道府県の人たちと友達になれることがとてもうれしかった。今度の世界ジャンボリーにも英語を話せるようになってもっともっと楽しくしたいと思う。



16NJ感想文

大阪2隊 松井 怜央(豊中第18団BS隊オオカミ班)

ぼくが一番つらかつた事は、八月四日の大雨です。テントサイトは水たまりだらけ、それに汚水まであふれてしまつて、まるで地獄のようでした。大変だつたけど、何とか水たまりをなくせました。僕自身はあまり協力できていなかつたように思います。次 また行くことができるなら、もっと改善できるように努力します。

16NJから帰つてきてから感じたことは、やっぱり団体行動はすごく大事だし、仲間と助け合うことも大事だなあと思うようになりました。16NJにいて良かったです。初めてのジャンボリーで、暑かつたし、楽しかつたです。

16NJではイベントがたくさん有つて、楽しかつたです。特に「カルチャー」では、16NJの皿作りやお箸つくり、ストラップを作りました。

しんどい時もあるけれど、指導者が助けてくれました。ぼくが感謝すべきは、家族・自分の団の人・指導者・先輩・友達・きらら浜です。今までの人生の中で、一番楽しかつたです。有難うございました。

16NJの感想

大阪2隊 上坂 亮太(豊中第18団)

九泊十日という、初めての長期間キャンプだったので、不安も少し有ったけど、今までしてきたキャンプの中で、一番楽しかったです。

一泊目はバスの中で寝ることになったけど、全然眠れず、寝不足になりました。僕たちが乗っていたバスは会場に一番について、カメラでとられました。設営をするとき、風が結構吹いていて、大変だったけれど、何とかテント、タープが完成しました。

二泊目、開会式が有りました。開会式は結構盛り上がりました。この日の夜、30分ぐらい並んでシャワーに行きました。

三泊目、最初のプログラムをしました。地球開発村というところに行きました。そこでは、今の日本の環境がどうなっているのかがよく分かりました。

四泊目、この日は何もすることが無かったので、スカウトショップに行きました。めっちゃ行列で、なかなか前に進みませんでした。すでに商品がいくつか売り切れていました。

五泊目、フリーの時間、海に遊びに行きました。海で遊んで泥だらけ。水道水で遊んでびよびしょ。楽しかったです。

六泊目、キャンプで初めての雨。タープとテントを守るのがめっちゃ大変でした。サイトがぐしょぐしょ。この日、アリーナショーに僕たちは遅れて行ったので、皇太子と総理大臣を見ることが出来なかった。残念。

七泊目、広島へ行きました。六年生の時行ったけど、改めて原爆の恐ろしさを知りました。

八泊目、最後のプログラム、サイエンス。ハンカチを作りました。楽しかったです。

このキャンプで色々な事が分かりました。めちゃくちゃ疲れました。でも楽しかった。16NJに行って良かったです。

16NJ感想文

大阪2隊 信田 知輝(豊中第18団)

初日は大阪2隊・3隊で豊中市役所に集合しました。最初の軽い挨拶をしてから、二個隊共バスに乗込み、親に見送ってもらい、その後次の日のために寝ました。朝5時に山口県きらら浜に到着しました。何と一番乗りでした。とても嬉しかったです。それから設営を始めました。ですが・・・ビビンバ班はタープを張ることすらくだくだです。

いよいよ昼過ぎ開会式です。まず最初に自衛隊の練習機T-7によるアクロバット飛行から始まり、参加国旗や参加隊旗が入場をして、スペシャルゲストなどが来て来て、無事、開会式が終わりました。

その後は何ごともなく続き、8月3日広島ピースプログラムに行きました。二度目なので、特に学ぶことは無いと思っていたが、改めて3階まで見たら、少し前と違って、考えを直すことができました。

次の日の昼、副長から雨が降るから荷物をしまえと言われて、自分のベッドの上に置いといたら、次の瞬間、いきなり大雨が降り・暴風が来て、ひどいことになりました。自分の班のサイトだけ水浸しになり、とても生活出来る状態では無いので、サイトを移しました。ですが、やらないと思っていたアリーナショーが始まりました。気分はみんな下がっていましたが、何とか会場に着きましたが、皇太子殿下と安倍総理のあいさつは終わってて、悲しかったです。

その後、山口活性学園が歌う 16NJのテーマソングを副長達と一緒に踊りました。楽しかったです。その後も普通にいき、最後のイベント閉会式が始まり、とても楽しい最後の思い出を作り、私達は無事大阪に帰ってきました。

今回のジャンボリーは色々ジャンボリーのことで勉強になりました。途中で大雨がふったときにタープが崩れたり、服がびしょびしょになったり地面が水浸しになりました。そのときに隣のシンガポールのひとがタープ直しを手伝ってくれました。「ボーイスカウトはやっぱり助け合いだなー」とその時思いました。しかし、僕の班は団結力がなく、いつもテント立てやタープ立ても遅かったですでも最後はみんな頑張っていました。いつも僕はダラダラしているけど、今回のジャンボリーからダラダラしないように心がけるようにしています。なので、色々他の人も成長しているのではないのでしょうか。一日目は色々不安だったけれど、二日目からは楽しかったです。他の人は、隣のシンガポールの人とグッズを交換しようとしていました。でも、シンガポールの方は、ポケモンのグッズを欲しがっていたので、あまり交換してくれませんでした。そして、僕の友達の一部が腕時計を交換していたけど、交換してもらったものが安物で、損をしていました。そのあと、友達がぼくに腕時計の交換を何度も迫ってきました。八日目のサイエンスというイベントにいきました。楽しかったので、二回行きました。二回目に行ったときにアシモのペーパークラフトを作りました。八日目は楽しかったです。そして帰るとき、バスで友達と交歓をしていました。今回は楽しいことがたくさんあったので、一生心に残ると思います。

今回、ジャンボリーに行けて本当に良かったです。ここでしたことを、これから生かしていきたいです。

「ジャンボリーを経験して」

ジャンボリーは思ったより楽でした。その理由は、自隊のキャンプも、ジャンボリーと一緒にぐら疲れるからです。自隊のキャンプもジャンボリーも一緒に、テキパキと行動するところが似てて、楽しく過ごせました。

もう一つ理由があります。ジャンボリーに行く前から、オスキャップや5TC(第5回地区ジャンボリー)といった長期キャンプを体験していたからです。オスキャップや5TCも夏に行ったキャンプなので、暑さに負けないで生活が出来ました。

しかし、交流会は良い思い出です。外国の人と何とかしゃべったのが面白かったです。そのうえ、交換品という思い出の品物も有るのがうれしいです。そして、こんなジャンボリーを企画してくれたリーダー達、ありがとう。

「16NJの感想」

今回のキャンプは、今まで長いキャンプは2回有るが、大きかった上、海外のスカウトも一杯来ていた。自分の英語力はあまりなかったが、終わったら少しは力がついていると思います。また、海外ではどれだけ多くの国が英語を使っているかも勉強になったし、他県連盟との交流も有ったので、楽しかったです。

あと、大阪2隊は男子だけだったので、すごく暑苦しかったんですが、一日目以外の日は余り退屈なくて、ほとんど近くの外国隊と交流をして、英語を試すのに良かったと思います。

最後に、思い出としては豪雨ですね。大阪2隊の班サイトは、水はげが悪く、水を抜くのが大変しんどく、苦勞していた時、隣のシンガポール隊の人たちが手伝いに来てくれたのは、本当に感動しました。

ジャンボリーに行って良かったです。

「ジャンボリーが教えてくれること」

大阪2隊副長 吉田泰伍(豊中第2団)

16NJは私にとって3回目のジャンボリー参加となりました。過去2回を振り返り、全て同じジャンボリーでありながら、別の楽しみ、別の達成感を味わえたと思います。それは、まるでボーイスカウトの生涯学習の縮図のように感じます。

最初スカウトとして参加した時にはボーイスカウトの大きさに気づかされ、同じ教育を受けた世界中の人が同じ場所で同じ経験をしていることに大変な感動をし、続けてきてよかったと感じたことをしっかり覚えています。次はベンチャーで、スタッフと個人プロジェクトをしましたが、本当にジャンボリーを全部楽しむのはこの年代だと思いました。自由な時間には交流と見学をしまくり、このままずっと帰りたくないと思っていました。

そして、今回、副長として参加した16NJは学ぶジャンボリーでした。隊編成は初めてづくしの、男子ばかりの40人の標準隊でベンチャーも混じっているというまさにボーイスカウトというような環境で、しかも隊長には最初に、スカウトと一番近い位置でスカウトを楽しませて欲しい、という指令をいただき、少しの不安と一方で大きな期待とでいっぱいでした。しかし、この時はスカウトからこれほどまで多くのことを教わるとは思っていませんでした。やはり、40人もいろいろなスカウトがおり、もめたり、けんかのようなことをするのですが、他団のスカウトだしどこまで踏みこんでいいのかと、悩むこともありました。班長が班員との年の差や、団ごとのやり方の違いに苦労していることもとても感じました。また班長自身も、高校生らしく、やる気をなくしたり、恥ずかしがってノリについてこないということもありました。始まる前や最初の方は、どうなることかと思っていたのですが、ジャンボリーの力というのはやはりすごいもので、日程が進むにつれ、状況はとてもドラマチックに変化していきました。

このような問題が隊全体の動きにも影響が出始めた折り返しの頃、リーダーたちも何とかしなければと思っていたようで、ある夜、隊長から「吉田副長、一回怒れ」という指令が出ました。私は怒るというのが、この世で一番苦手なのですが、先輩リーダーにも恵まれ、みなさんからとても大事なことを教えていただきました。そのアドバイスの甲斐あってか、その後からスカウトたちの動きが徐々に変わり始め、決定的だったのが、かの有名なゲリラ豪雨でした。

あの後、リーダー含めスカウトたちもみんなかなりの荷物と心の被害を受けていたはずなんですが、地面がゆるんだ分だけ結束は固まり、すぐに班長中心に全員で復旧が始まりました。それもみんなアホみたいにノリノリで。これを見た瞬間、私はこれこそ、ボーイスカウトだ！と感じました自然への感謝と敬意、メリハリ、チームワーク、すべてが含まれ、スカウトには嫌な思い出かもしれませんが、ずっと覚えていて欲しいと感じました。全期間を通して、スカウトも成長しましたが、同時に私もかなり成長させていただきました。

関わっていただいた全ての方にお礼申し上げます。ありがとうございました。



子供がボーイスカウトに所属したことがきっかけでカブ隊活動のお手伝いから始まり、ボーイ隊まで続けた結果、自団副長という立場になってしまい、16NJの副長を拝命する次第でした。そのため、私自身はボーイスカウトとしてのジャンボリー参加経験が無いため、初参加するスカウトと同じような気持ちで16NJに臨みました。

たまたま2年前から豊中地区キャンボリー、大阪地区キャンボリーが連続開催されたため、複数団のスカウトが混在する長期キャンプを段階的に規模を大きくしながら経験することが出来ました。ジャンボリーは、そういった流れでは締め括りの位置付けで参加が出来ました。

現地では想像を超える運営サイトの広さ、多彩なパビリオン、海外隊の多彩さに、これまで経験したキャンボリーにない多彩な体験ができました。日々、参加隊のスカウト達が目を輝かして海外隊スカウトや他府県隊スカウトとの交流にいそむ姿にジャンボリーの良さを実感しました(私自身もネームカード交換ができて、アフタージャンボリーを楽しめそうです)。スカウトが感想文に記載しているように、これからは英語スキルを持っていれば、より深いスカウト交流につながると実感しました。サイト内を歩くと、すれ違うスカウト達から盛んに挨拶を受け、本当に誰もが同じスカウト同士であることも強く実感しました。

指導者としては、同じ豊中地区とはいえ、普段顔を合わさないスカウト達と寝食を共にでき、これからも16NJ同期生ということで思い出を共有できたと思います。

また、多彩なパビリオン、イベントの実現のために、数多くのバックヤードスタッフ(本部運営スタッフ、ISTスタッフ)の方々の尽力があってこそ成り立っている大会であることを強く認識しました。

16NJでは多くの気づきを得ることができ、自団のスカウト活動に戻ってからは、「挨拶をしっかりする事」「裏方で努力するメンバーがいること」を学べるような指導を取り組みたいと考えます。



感想文のようなもの

大阪3隊 ペンギン班 下村亮太（豊中第2団VS隊）

何からにしようか。とりあえず順番に話を進めましょう。

私は前回の15NJに参加して楽しかったという思い出があり、そこから今回の16NJにも参加しようと思いました。1回目のジャンボリー集会は2隊と3隊の合同で行われました。といっても最初から最後まで合同なんですけど…。

さあ始まりましたジャンボリー集会。ここでは初めましての人たちでいっぱいでした。2隊は同じ団のBS隊が3人にBS隊長、それに15NJで同じだった人が2人と2隊はいいなーなんて思って3隊をみると知り合いなんて…と言う状態でした。それから班分けが始まりイスに座るとシーーン。誰もしゃべらない、口を開かない。おいおいこの班大丈夫？と思いつつとまあ自己紹介を始めようと思いました。一通り自己紹介が終わるとまたシーン。本当に大丈夫なのかこの班。そのあとは班名を決めました。3隊の班名はペンギン、ペガサス、天津、ペリカンに決定していました。別に示し合わせたりしたわけじゃありませんけど「ペ」ばっかで覚えづらい！

次はジャンボリー本番です。訓練キャンプやらなんやらをすっ飛ばしてジャンボリー本番についていっちゃいます。

1日目、着いて早々テントを大量に立てることに…テントを立て終わると続いてタープを立てます。ところが主ロープすべるすべる。そうとも知らないリーダー方は「はよーや」と一言。それが終わればサイト選びです。私は物を出しやすい1番手前のテントを選びました。タープの方はじゃんけんにかけてしまい3番目に選んだ入口に1番近い場所。他の机とは違う事に選んでから初めて気付きました。夜になりテントに入ると眠りについていました。

さて2日目、この日は門を立てたり排水穴を掘ったり生活のしやすいようサイトを仕上げて行きました。

3日目この日は開会式でありジャンボリー本番1日目。この日は食料担当だったので5時30分の配給を貰うため班員を起こし、1日が始まりました。まーなんかね、楽しかったね、開会式。

4日目この日は何があったかな…？とにかく陰の無いところへ行っただけという記憶しかないな。後、茨木の人との交流会があったな。ファルコンサイト遠かったなあ。

5日目広島へ行った日ですね。人が多くて警備員の人が迷惑そうにしてたな！夜には茨城の人との交流会が行われました。時間を押していましたが楽しい時間を過ごせました。

6日目信仰奨励の集いとアリーナショーのある日です。雨降る中、教えと説かれアリーナショーではリーダーと班長4人がおもいっきりテンションを上げていました。そういえばこの日はゲリラ豪雨の日でもありました。雨が降り始めたら一斉にテントの中へ避難する大阪3隊。隣のイスラエルを見ると皆笑って歌を歌っていました。楽しそうだな〜と眺めていると「Come on」と声が。言われたからにはと混じって歌いました。とても楽しかったです。

7日目地雷探知や剣玉をしたのはこの日でしたっけ？夜は愛知の人との交流会でした。最初は良かったものの最後の方はグダグダ…後々感想を聞くとあまり愛知の印象は良くなかったみたいです。

8日目1週間が過ぎました。この日行った場所にはソーラーカーやらなんやら色々ありましたが相変わらず陰が…それは置いて大阪3隊の隊員がジャンボリー新聞に載りましたね！

9日目ジャンボリーの最終日です。なんやかんやで早かったですね。アリーナショーでは隣にいた名前も知らない何処かのスカウトと肩を組んだりとんだり跳ねたりしました。ラストの花火は綺麗でしたね。

10日目と言ってもバスでのこと。皆ネッカチを投げてメッセージを書いてもらっていました。地震の誤報もこの時でしたね。市役所につくギリギリになって「降りたくない。」とか「時間戻ってー。」「キララ浜に戻ってー。」と楽しかったんだなあって改めて感じました。

渋々バスを降りて、隊長の挨拶やらが終わり最後の締めというかパフォーマンス。やっぱりグダグダでした。うまく締められれば良かったんですが…

最後 このジャンボリー中とてもとても楽しかったです。初めは班長なんて…とか、10日間もキャンプなんて大丈夫かな…と不安ばかりでした。班員の名前なんて訓練キャンプの時もきちんと覚えていませんでしたから。ジャンボリー中、皆で協力して10日間楽しく過ごせました。あと名前はきちんと覚えましたよ！

あれ？これ感想文になってる？

大阪3隊天津班 田中 惇暉(豊中第6団)

ジャンボリーに行く前は、クーラーのついた家の中に一日中いて、10日間も外で生活できるか不安でしたが、しんどくならずジャンボリーを終える事ができて、本当に良かったです。

シャワーが設置されていて、不快な思いをせずに生活できたのが嬉しかったです。

外国人と交流したのは、ジャンボリーが初めてでした。いろいろな国の人と交流ができて、文化の違いや考え方の違いを知ることができる貴重な体験でした。台湾人の愛国心はすごいと思いました。

ジャンボリーは一つの大きな祭りの様でした。山口県や山口市、又多くの企業やリーダーの力でジャンボリーが出来て有難いと思います。大阪3隊の中・班の中にも友達が出来て、ジャンボリーの間、楽しく過ごすことが出来ました。ジャンボリーの10日間はあっという間に終わってしまい、とても楽しかったので、二年後の世界ジャンボリーも参加したいです。

ジャンボリーでの経験

大阪3隊 天津班 小畑 拓実(豊中第8団BS隊)

僕がジャンボリーで一番印象に残ったことは、閉会式でした。なぜならば、キャンプにも慣れていて純粋に楽しめたからです。また、他の式と違い夜だったことも盛り上がった理由の1つだと思いました。始めは最終日にはつかれていると思っていたけれど、反対でどんどん慣れて楽しくなっていました。

モジュールで印象に残ったのは、カルチャーの徳島ブースでした。阿波おどりのおどりはテレビでもあまり見たことがなかったので印象強かったし、勉強になりました。他の都道府県の文化についてもっと知りたいと思いました。

他には、4日にふった大雨も印象に残っています。ふりはじめた時にテント内にいて、ほとんど動けなかったもので、こんどはもっときばきと動けるようにしたいです。

今回のジャンボリーで学んだことを隊の活動にも生かしていきたいと思います。



(感想文)

大阪3隊 ペガサス班 遠藤 匠 (豊中第8団BS隊)

最初は初めて会って話しがずらかったけど、本番の時は9日間も一緒にいて、話をしたりして、今思うとすごいことだなと思います。本番の話に移ります。

最初のイベントの開会式ではまさか山口県の自衛隊が来るとは思いませんでした。

ジャンボリーで一番生活習慣が変わったのは朝5時半から始まる配給です。家で目がさめる時間といえば7時でキャンプでも6時なのに5時に起きないといけないところです。家に帰った後も5時30分から6時くらいの時間に起きてしまい、眠気がすごかったときもありました。やっぱりジャンボリーといえばメインイベントのアーリーショーですね。

全体的に楽しかったけど近畿ブロックの出しものがちょっとざんねんだったことです。

閉会式は次のアジア太平洋ジャンボリーのことを言って日本ジャンボリーのことを言わなかったのがざんねんです。大雨とかいろいろあったけど全体的には楽しいジャンボリーでした。

4年に一度のジャンボリー

大阪3隊ペリカン班 平岡 輝 (豊中第8団BS隊)

今年は4年に一度のジャンボリーに参加して、とてもよかったです。

最初は行きたくなかったのに、隊長が「4年に一回のジャンボリーやから絶対行っというたらいいで！」と言ってくれて4年に一回やったら次は高校3年生なので後悔してもいいという気持ちを持ちジャンボリーに行きました。ジャンボリーは想像以上に大変で荷物まとめから一週間に一回程度の集会などでくたくたでした。それでもなんとかがんばりました。

ジャンボリーは7/30~8/8でした。その中でジャンボリーは一日目と二日目と最後の日がとてもしんどかったです。それでも、おもしろいという気持ちを持ってばしんどい気持ちはすぐになくなりました。

ジャンボリーは日本人から外国人のいろんな人が来ていました。ぼくはジャンボリーに来ている外国人と気軽に話したり、触れ合ったりすることもできました。中でも特にしんどかった事と大変だった事は寝るときに何日目かの大雨と雷でした。特にしんどかったのは寝る時でした。風があまりなくてとても蒸していました。けれどもフライをとったり、チャックの部分を開けたりとする工夫をしてなんとか寝ることができました。暑さで寝れない日などは次の日はとても眠たくてとてもしんどかったです。ほかにもいろんなことがありました。隊長に怒られたり、料理を失敗したり、トイレが汚かったり、楽しい交流会があったり、とても貴重な経験をして「ジャンボリーに行ったら後悔はない」と今でも思います。2015年の世界ジャンボリーも行けたら行こうと思っています。あの8泊9日はとても楽しかったです。

「第16回日本ジャンボリーに参加して」

大阪3隊 ペガサス班 久保 日菜子 (豊中第16団BS隊)

私が一番楽しかったのは、閉会式です。閉会式では、私が大好きな「なついろ」が来ていろいろな歌を歌ってくれました。そのとき私は、ずっとテンションが上がっていました。ジャンボリーのテーマソングを歌ってくれてうれしかったです。ジャンボリーのテーマソングを歌ったとき、みんなが一つになった気がしました。私はもっともっと歌ってほしいと思いました。閉会式の最後に花火が上がって、すごくきれいでした。閉会式から帰る時、もっとみんなといっしょにいたいと思いました。ジャンボリーでは、いろいろな人と交流しました。千葉の人や外国の人とも交流しました。イスラエルのかわいい女の子といっしょに写真を撮らせてうれしかったです。

アーリーナの所でネッチリングやおかしをいっぱい買いました。班の友達といっしょにいて楽しかったです。Kさんの「猛獣狩りに行こうよ」がすごく楽しかったです。

帰る時、バスの所まで荷物を運ぶ時はすごく大変でした。つらかったです。つかれきってバスの中で寝てしまいました。市役所に着いた時に、また行きたい！と思いました。キャンプが終わって後日、班のメンバーで打ち上げがあったけど16団のキャンプと重なって行けなかったのが残念でした。今でも、16団のMちゃんやH君といっしょにジャンボリーのテーマソングを歌っています。楽しかったです。また行きたいです。

感想文

大阪3隊 ペンギン班 佐藤 芙美(豊中第16団)

七月下旬から私はボーイスカウトで行われた日本ジャンボリーに参加隊として参加しました。キャンプは山口県にある「きらら浜」という海辺に近いところで開催しました。大阪から山口まで約六時間バスで会場へと行きました。到着し間もなく設営から始めました。三十九度近くある日差しの中での設営はかなりしんどかったです。

一日目は、設営などサイト作りにはげみました。四十度近くにわたる天気の下での作業は、私たち都会っ子にはかなりの重労働でかなり疲れた一日でした。

二日目は大会にはかかせない開会式がありました。一万五千人近くの人が始めて一か所に集合した一日でした。東洋人と西洋人が一斉に同じ場所に集まるのは実に奇妙な気分でした。

三日目から六日目の四日間には茨城・愛知・千葉県などの交流がありました。しかし、私は通信員という役割をまかされていたので、通信会議のため、一部の交流会に参加できず、少し残念でした。また四日目には広島に行き、原爆について学びにいきました。

キャンプ生活後半、みんなもキャンプにも十分慣れてきて、熱さにも慣れ、プログラム一つ一つがすごく楽しくなり、他国の人も積極的に話すようになり、多くの友達ができました。

最終日の前日閉会式があり、花火などがあり、楽しいクライマックスになりました。十日間は長いようでみじかいような時間でしたが、充実した夏のいい思い出ができてよかったです

「16NJに参加して」

大阪3隊 ペンギン班 狩谷 将太(豊中第16団BS隊)

今年の夏、山口県で行われた第16回日本ジャンボリーに参加しました。

長いようで短かった10日間でしたが、いろんなことを経験できました。開催地になったきらら浜は、瀬戸内海に面した埋め立て地です。思っていたより広くて驚きました。ジャンボリーでは、アリーナショーや、剣玉から地雷撤去まで、いろんな体験ができるプログラムがありました。他にも、外国のスカウトとグッズの交換、班の人と出店に食べ物や記念品を買いに行き、楽しかったです。その楽しかった中で、学んだことも沢山ありました。

中でも、「時間を守ること」を特に大切にしたいと思いました。キャンプの最初は、朝礼などが遅れてしまうことがありました。スケジュールが沢山あったので、後のことまで遅れてしまいます。僕も時間を守れなかったことがありました。時間通りや、時間より早くできたときは、すごく気持ち良かったです。これからも気をつけたいです。ジャンボリーでは多くのことを学べたし、新しい仲間もできました。

この貴重な体験をこれからの活動にも役立て、K隊長のように、末永くスカウト活動を続けたいと思いました。

ジャンボリーに参加して

大阪3隊 ペリカン班 林 風声

7月30日から8月8日までのジャンボリーに参加しました。ジャンボリーに参加するときめるときから、わくわくドキドキしていました。長いキャンプははじめてなのですごく楽しみでした。外国人と英語で話せるのがドキドキしていました。7月30日の夜に出発しました。山口県きらら浜には、1番につきました。まわりにはなにもなくて気持ちよかったです。そのあとどんどん人が入ってきました。となりのサイトの国は、ブラジルとイスラエルときいて、イスラエルの国のいちほどこなんだろうと思いました。

ジャンボリー中に一番やってよかったと思ったことは、外国人とのこうかんです。前を通った人に話かけて、もっていったものと交換しました。話しかけるときはすごくきんちょうしました。なぜかという、外国人に自分から話かけたことがなかったからです。おひるのフリーの時間にはサッカーをしました。ちがう隊の人たちやリーダーもたくさんはいつてきました。地面がビチャビチャなので、ドロドロになりました。そのあと売店で飲み物を買ったりしました。

たのしかったです。17回にも参加したいと思います。

「16NJを終えて」

大阪3隊ベガサス班 今村 知愛(豊中第20団)

ぼくは、16NJに行っておどろいたことは、日本人以外の外国人が、たくさんいたことです。そして、となりのサイトがどちらも外国のスカウトでびっくりしました。

16NJ中に一番おどろいたのがアリーナショーで皇太子様がこられていたことです。それから積極的に仕事に取り組んで指示をだしていた班長もすごいなと尊敬しました。ぼくもそんなベンチャースカウトになりたいです。よかったことはみんなのチームワークが乱れず助け合いをして仕事をしていたところだと思います。反省点はもうちょっと手伝いとかをして動いたらよかったと感じています。くやしかったことはぼくの班員に「君、炊事賞をもってないから料理へただね」と言われた事です。でもその言葉は自分はやる気をおこさせる言葉になりました。

他の班の良いところは個性豊かというところですか。最後の閉会式はどこの隊もさわいでもりあがっていました。ぼくも閉会式はすごく楽しかったです。また次のNJにも挑戦したいです。

16NJの感想文

大阪3隊 天津班 杉山 颯良(豊中第20団)

ぼくが一番印象に残ったことは多くの外国人と会話した事です。最初はハローから始まりましたが多くに外国人と話すうちに少しだけ会話ができるようになりました。僕が一番最初に出会い一番最初に交換グッズを交換した外国人はバングラデシュの人でした。うちわと名刺を交換しました。そして最後に握手をしました。その時に感じたのは握手をするだけで他の国の人と心が通じた気がしました。イスラエルにブラジル、モンゴルやホンコン他にもいろいろな国の人と会話をしました。ぼくは、コミュニケーションを取ることが大切だと思いました。すごくいい体験ができたと思います。

7月30日火曜日バスに乗りワクワクしていました。高速道路に入った瞬間寝ました。気がつく朝になっていました。窓の外を見ると広い駐車場に大阪二隊のバスが先頭で走っていました。ぼくはそこからすごく楽しくなりました。バスからぼくたちのテントサイトまで重い荷物を運びましたがその時はテンションが上がっていたので重たいはずの荷物が軽く感じました。テントサイトに着いて昼ご飯を食べて設営を始めました。人数も多かったため早くテントが立ちました。8月1日木曜日開会式がありました。開会式はとにかく迫力がすごかったです。

8月4日はアリーナショーがありました。皇太子様や安倍首相、文部科学大臣や宇宙飛行士の野口聡一さんも来て楽しかったです。

8月7日水曜日は閉会式がありました。

ぼくは閉会式が一番盛り上ったと思いました。大声を出しても自分の声が聞こえないくらいに他の人も大きな声を出していたので、ぼくも大きな声を出したが他の人の声のほうが大きかったです。多分生まれてこんな大声を出したのは初めてだと思いました。帰る時は家に帰りたいのかまだまだ泊まりたいのかわからなくなりました。

もっとみんなとくらしがかったけれど家に帰ると風呂もわいていて料理もかかってに出てきて最高でした。

ぼくは何よりもふとんで寝れたことが幸せでしたが2、3日たつとまたテントで寝て料理も自分たちで作る生活にもどりがたくなりました。

ぼくは、最初行きたくなかったけど行かないとわからない楽しさがあるので次のジャンボリーで行きたくないと言っている人を見たら、ぼくの体験したことなどを伝えていきたいです。

「ジャンボリーで感じた事」

大阪3隊 ペンギン班 佐藤 小夏(豊中第20団)

私はジャンボリーに行って改めて強く感じた事があります。それは挑戦する事で得る事ができる物の大きさです。

最初は外国人と絶対話す!!とはりきっていましたが、いざ外国人を目の前にすると、緊張して話せませんでした。でも一緒にいた子はすごく上手に話していて、楽しそうだったので(すげえ…いいなあ…)と思いました。だから、私も頑張ってあいさつしてみようと思いましたが、話しかける前に行ってしまいました。

次に来た人とは1回目のような事は、したくないと思ったので自分から話しかけました。すると上手く通じたので、よかったです。その人とは、会うたびに話したりしてすごく仲良くなりました。思い切って話しかけて良かったなと思いました。それから来た人とはふつうに話せて仲良くなれました。よかったです。

9泊10日間、大阪3隊のメンバーとすごせて、とつてもたのしかったです。

めっちゃ気温も高く途中で体調もくずしてしまったけれど、最高の思い出が出来ました。ジャンボリーに行けて本当に良かったです。

そして指導者のみなさんや、準備委員のみなさん、本当におつかれさまでした!!ありがとうございました!!次の世界ジャンボリーも行きたいです。



16NJでえたもの

大阪3隊 ペリカン班 倉田 祥梧(豊中第20団)

このジャンボリーは最初の会議から参加できず、訓練キャンプから参加だったので名前を覚えるの時間がかかったのでジャンボリー期間中に名前を覚えました。

最初にジャンボリー会場にきたときは何もないな一と思ってびっくりしました。しかし次の日になると、ぜんぜん景色が変わりテントやタープでうめつくされていました。

こんな光景は初めてだったのでビックリしました。しかも夕方になると大量の赤トンボがとんできて、もうこんなことは初めてだったので少し感動しました。

ジャンボリーでは先輩たちの性格もよくわかってよかったし、特にいろいろな人と友達になれてうれしかったです。

アリーナや開会式などは大いに盛り上がり楽しくそして楽しみました。

そして市内、府内、国内、世界、とのかかわりをもてたことをうれしく思います。

16NJ感想文

大阪3隊 ペリカン班 川嶋 祐太郎(豊中第20団)

7月30日から8月8日まで、山口県きらら浜で開催された日本ジャンボリーに参加しました。30日の十九時ぐらいにバスで出発しました。興奮してなかなか眠れなかったけど、岡山をすぎたあたりで眠ることができました。到着したのは一番で周りを見渡すととにかく、本当にここに一万四千人が来ると思うと、とても信じられませんでした。時間がたつと人が増えてテントだらけになってしまい、本当にたくさんの人が参加するんだと思いました。

二日目の午後は、開会式が行われました。山口県知事などがきて演説を行いました。

三日目は地球開発班に参加しました。そこで地球探知機を使っての地雷の探し方を教わりました。突然に探知機を使ってみました。思ったより重たくて、これで地雷を探すと思うととても大変だと思いました。

四日目は広島ピースの日で平和学習のため広島へ行きました。まず平和記念館へ行き、その後貞子の像や原爆ドームを見て最後に語りべさんの話を聞きました。そして、改めて原爆の恐ろしさを実感しました。

五日目は参加している各国のワッペン交換が行われて香港のワッペンが一番きれいだと思いました。午後はアリーナで皇太子や安倍首相などが来て講演が行われたり大会ソングを歌ったりしました。とても楽しいイベントでした。

六日目信仰奨励の集いに参加しました。

自分の知らない宗教があって、世界にはいろんな考えがあるんだと思いました。

七日目はカルチャーに参加して秋田県クイズをやりました。

八日目はサイエンスに参加してアシモの模型を作りました。

九日目徹収するためテントをたたんだりイスラエルと交流したりしました。その後東京の団の友達にあいました。

十日目十時頃にバスにのってかえりました。

一年位準備をしていたけど、今思うととてもみじかかったと思います。またいろいろな国や地域の人と仲良することができました。夏やすみのいい思い出になりました。

「ジャンボリーの感想」

大阪3隊 安達 音香 (豊中第22団BS隊)

私はジャンボリーに行ってきた、たくさんの友達が出来ました。面白い友達から、とてもやさしい友達。こんな友達が出来たのもジャンボリーのおかげです。「有難う！ ジャンボリー！！」

次にジャンボリーではいろいろなものに出会いました。「楽しさ」「怒り」「悲しみ」「ビックリ」「発見」「不安」ざっとこんなものしか出てきませんが、きつともっといっぱいいろいろなものに出会っています。

次のジャンボリーでは、私からどんどん友達を作っていきたいと思います。

「16NJに参加して」

大阪3隊ペリカン班 水口 悟志 (豊中第22団VS隊)

私が今回ジャンボリーに行き、学んだことがたくさんあります。平和や原爆、自然などについて学びましたが、一番身に染みて分かったことは、国の文化の違いです。

今回のジャンボリーで、私のアルマジロ区では、半数ぐらいが外国から来たスカウトでした。外国人と交流する時にまず行き詰ったのが言葉の壁です。ジャンボリーの記念に外国人と交流しようと用意してきた交換用グッズを交換しようと思っても、なかなか上手く出来ませんでした。さらには、外国人が「ノコギリを貸して」と言っているのに、ピューラを出してしまったりと、散々でした。

次に悩んだのが、習慣の違いです。この問題にはしばしば悩まされました。もう寝る時間なのに、隣のサイトでやかましく騒いだり、テントに土足で上がったりしてました。この様な国際的な経験は将来必ず良い経験になると思います。

ジャンボリーに行けて、本当に良かったです。

結構長い事リーダーをさせていただきましたが、小さいスカウトの担当が長くジャンボリーは縁が無いと思っていました。しかも 13NJ 当時「あなた達が大きくなった時に日本で世界ジャンボリーがあるのよ」と言いながら 舞洲で一緒に見学したスカウトと一緒に参加する事になるとは思ってもいませんでした。

半分しか参加できずたいしてお役には立てませんでした、個人的には参加させていただいて本当に良かったと感謝しております。なにより、初めて顔を合わせた時のスカウトたちの表情や動きと終わった後の彼らとが本当に変わった、よく言われる“ジャンボリーマジック”を目の当たりにできたことが感動的でした。

今回の日本ジャンボリーはいつものジャンボリーとかなり変わったものであったそうですが、豊中の隊が過ごしたアルマジロサイトはいろいろ難しい事、改善が必要な事が多かったことは確かです。この点については各隊長・リーダーの方々が述べられると思いますが、私が今後世界ジャンボリーや日本ジャンボリーに参加していく中で地区として準備が必要ではと思ったことがあります。

豊中のスカウトならビーバーからリーダーまで誰でも知っている・できる という“一芸”を開発してはどうでしょうか？他地区のスカウトとの交流会や外国隊との交流の中で、自信を持ってこれは歌えるという歌でもダンスでもスタンツでも料理でも、何かあればそれをきっかけにして盛り上げる事が出来たり言葉が通じなくてもそれを教え合う事で交流が出来たり、スカウトたちが流れを組み立てて楽しめるきっかけになるのではと思います。

長いキャンプサイトでの生活の中で大きな楽しみの交流が、より楽しくなるための準備がやはり必要ではと実感しました。出来れば今後 ベンチャーや地区のリーダーが中心になり少し長い時間をかけて地区をまとめるプロジェクトにさせていただけたらよいのではと思います。

参加したスカウトは自分が何が出来て何が足りないのか実感したと思います。今度はそれを後輩たちに伝えて、またジャンボリー参加の楽しさを自分の言葉でしっかり伝えられるようにしなければと最後の締めくり方を模索しております。

大きな大会を運営するのがいかに大変な事であるのか、垣間見させていただきました。微力ながらまたお役にたてるようであれば縁の下どこかでお手伝いさせていただきたいと思います。派遣にご尽力いただきました地区実行委員の皆様、団関係者、保護者の皆様、各リーダーに心より感謝いたします



「しまった！なんて所に来てしまったんだ。」

これはみんなが最初に集まった3月31日の私の正直な感想でした。

この時この瞬間まで、初めてのジャンボリーをただ単純に楽しみにしていたのですが、ちかいを立てて2年目にしてBVS副長の私にとって、BS・VSで構成された、40人の大所帯。ジャンボリー参加隊副長の拜命は、とてつもなく大きく重たい荷物でした。

隊集会を重ねる度に重たくなるその荷物につぶされそうになる自分を励ましつつ、少しでも軽くする方法を考えてはみましたが、そんな方法はどこにもなく、自分にしかできない事などを探す余裕もなく、ただその荷物を背負える強さを自分の身に付け、自分にできない事をなくしていく事に精一杯の日々でしたが、容赦なく出発の日はやってきます。

しかし、そんな私の心配を知ってか知らずか、スカウト達は私の想像をはるかに超えるたくましさを見せつけ、私自身その心配は彼らにとってとてもおこがましい事であることに気付かされます。様々な事へ積極的に参加し、国内外のスカウトへの交流も、自分たちでどどんと出て行きます。同じ食材が支給されているのに、各班で少しずつ違う創作料理に驚かされます。何も無い中でも、少しでも暇があればすぐ遊びを思いつき、輪になって遊んでいます。叱られようと怒られようと、テントが浸水しようと、へこみも落ち込みもしません。

みんなが帰ってきてから、たくさんの保護者の方より「お世話になりました。」とお声をかけて頂きましたが、申し訳ないくらいに私は彼らのお世話は何もしていません。

私がやった事と言えば、彼らがケガをしないように目を向けて、彼らと一緒に楽しんで、彼らと一緒に笑う。指導者の私が現地ですることというのは、食欲に楽しむ事を楽しんでいる彼らの前では、それくらいしかないのではないかと思います。

今回、出発までにたくさんの指導者の方に、多種多様なご指導や励ましを頂きました事を、心より感謝いたします。皆様のお力添えがあったからこそ、この大きな荷物を背負いきる事が出来たのだと思います。

本当にありがとうございました。



IST(International Service Team:国際サービスチーム)

豊中第4団 木村照雄

16NJは、23WSJプレジャンボリーであると位置づけられていることから、運営は23WSJ組織に準じて行われています。大会期間を中心に多くのスタッフが必要とされ、日本全国および世界の国の人々によって構成されました。

ISTは、18歳以上のローバースカウト、指導者、スカウトクラブ会員、外国連盟指導者等が対象となり、大会期間を中心にJDTやJCTと共に業務を推進しました。

これに加えて、23WSJにおけるIST養成のため、ベンチャースカウトについても、本大会のISTとして参加しました。

このメンバーは、途中交代や大学生の遅参が認められていますが、基本的に7月29日から8月9日までの12日間の時間的拘束が課せられ、ISTトレーニングも受ける必要がありました。また、この大会の経験を活かし、23WSJのISTとなることが望まれているようです。(エ～)

豊中からは派遣団プログラムやサブキャンプ部などISTに12名、VS-ISTに8名、さらにJCTなどに4名が奉仕しました。生活は成人エリア内でしたが、派遣団とは場所が違い、VS-ISTは独立して、VS担当リーダーは近畿ブロックで固まると、サイト分けがありました。特にVSは集合しているためか、活発に交流していました。私は、ISTのヒューマンリソース部(HR部)に所属し、VSの生活面を担当しましたが、準備が不十分で、連盟の協力などもあり、少しずつ改善していきました。

また、ISTは担当が決まれば期間すべてその業務を行います。VS-ISTは、23WSJにおけるIST養成に向けた教育的な見地から前半と後半業務が変わりました。HR部からは、基本的に業務時間は9時から17時になると聞いていましたが、派遣先により変わりました。豊中のVSは、前半輸送部・後半サブキャンプ部のグループと、配給・食堂部と野外プログラム部のグループでしたが、前半は全員が朝や夕方にそろうことは難しく、早朝から夜遅くまで業務に励んでいました。また、大阪のVSで海へのハイキングを7日に実施しましたが、8日のサブキャンプの業務が多すぎて、業務のないスカウトにも応援してもらいやり遂げることができました。

知り合いが一人もない状況で、12日間のキャンプ生活、大変でしたが何とか耐えました。でも、もう少し情報があり、リーダーだけでも打合せができていれば、もっと楽しいキャンプ生活になったと思います。しかし、さすがVS、動かなあかん所はちゃんと働いていました。



「16NJは大会ソングに乗って」

本部スタッフ (Dear サブキャンプ本部担当)

浜嶋敏一郎 (豊中第2団)

心配していたジャンボリーも行ってみれば、なんとか役割を果たせました。

サブキャンプ本部の担当として、まず Dear の50隊受け入れは、交替で水を補給しながら行いました。豊中地区は他のサブキャンプなので私の担当外でしたが、マネージャーに許可を頂いて到着時に迎えに行きました。

テントサイトの設営方法は、さまざまでした。暑い中で制服を着ながらやる隊、Tシャツで気持ちよくやる隊、日陰を先にさっそうと作る隊など、事前の計画が必要だと現地を見ながら思いました。印象に残ったことは、隊のテントサイトは技術のアピールの場になっていることです。Dear のキャンプサイトですが、ある隊では調理場をコンパネでシステムキッチンのようにコの字に作っていました。そこにいた数人のスカウトが白くて高さがあるコックの帽子を被っていました。「うわっ、楽しそう」。それから隊旗や日の丸を高々と掲げる隊が多かったです。ゲートを大きく作っている隊もかっこう良かったです。「これらは事前の準備と訓練が必要だなあ。ジャンボリーを楽しくする工夫がいっぱいな」と感動を覚えました。

サブキャンプの仕事は、参加隊の支援です。朝4時半からの配給、この担当になると前日からサブキャンプ本部に泊まり込みで4時起きです。でもベンチャーISTは、配給物資の積み下ろしのために3時半に集合します。3時前に起きて、自分のテントサイトから隊列を作って30分かけて歩いてきます。配給時間が来ると各隊からリヤカーを引いてやってきます。次に6時半からトイレとシャワーの清掃の指示や確認です。初日は手洗い用タンクやトイレの水洗用の水が切れて、バケツで1時間以上補充をしました。スカウトの生活を快適にすることを考えて、水が無くならないようにいつも気をつけていました。

落し物の受付が次第に忙しくなります。ボールペン、時計、ネッカチ、大阪連盟の麦わら帽子(これは残念だな。何とかしてあげたかったけど名前がわからない)、お金、タオル、いっぱいです。IDカードが時々届けられます。これは途中から配布されたパソコンで検索できるようになり、直接他のサブキャンプにも届けてあげました。

熱中症の患者のお世話もあります。初日から救急車を呼ぶような状態になりました。サブキャンプの救護所は、常時待機していないので、時間によっては中央救護所に行ってもらう場合もありました。

大阪2隊と3隊にはなんとか顔を出すことができました。何もしてあげられることはないですが、サイトの話をお聞きすることができました。

自分のテントに帰るのは、勤務時間が7時から21時なので、22時近くなります。それから、服部さん、吉田さん、泉さん、原さんたちと楽しいお話で盛り上がりました。

最後に、皇太子様がまもなくサイトにご到着という時に、集中豪雨です。テントがなぎ倒されたり、宙に浮いたり、高くそびえた旗が倒れたりということになりました。砂利道の外側が大きな川になりました。雨が上がったときにキャメルのスカウトたちが総出で水を側溝に誘導しています。私も排水に注力しました。サブキャンプでは、手分けしてテントサイトの調査を始めていました。4時に予定通りアリーナショーを行うという連絡にスカウトたちは遅く出発しました。

自分自身として、ジャンボリーは楽しかったのかな。体力的にはなんとかなることだけは実感しました。食堂やサブキャンプで働いている豊中のベンチャーISTと顔を合わせて、元気にやっている姿を見るのも楽しみでした。アグーナリーで総務と一緒に担当した人にも出会いました。

Dear のサブキャンプ本部では、1回だけ大会ソングをスピーカーで流していました。大会ソングをプログラムエリアやサブキャンプ広場などいろいろなところで流すともっと楽しくなると思います。

海外スカウトとは、サブキャンプに来たスカウトと少し話をする機会がありました。唯一、道で話しかけた香港の女子スカウトに囲まれて写真を撮ってもらい、名刺をもらいました。

結果として、サブキャンプ本部の担当はよかったと思います。

う〜ん、ジャンボリーは楽しかったです。世界ジャンボリーも行きたいですね。

【16NJに参加して】

VS-IST 橋本直樹(豊中5団VS隊)

16NJに参加して良かったと思います。今回は参加隊ではなくVS-ISTで参加しました。ISTの仕事は、ちょっと大変でしたが色々な経験ができ有意義に過ごすことが出来ました。

僕は、前半の仕事は駐車場内の交通整理、後半はサブキャンの担当でした。

一日目は、朝早く到着して、設営をしたのでとても長かったです。

二日目はISTの説明などがありました。

三日目には、参加隊が現地に入ってきました。朝早くからISTの仕事で12時間ひたすらバスの整理をしていました。仕事の関係で開会式は見れなく残念でした。

大集会は参加することが出来てジャンボリーらしさを感じ、とても楽しかったです。

後半サブキャンプでの仕事は、トイレ掃除などサブキャンプの整備でした。

閉会式はすごく盛り上がり楽しかったです。最初はひたすら『長い』と、思っていました参加隊が現地入りしてからは、『あっ』という間でした。辛かった分それ以上に楽しんだので良かったです。

前回のジャンボリーの時にも感じたのですが最終日に帰るのがとても寂しくもっと居たいと思いました。

ジャンボリーに参加して一番良いのは、新しい仲間が出来ることです。

【16NJの感想】

VS-IST 植田 優父太(豊中5団VS隊)

2013年7月28日～8月9日の間の期間、参加隊より早くの会場入りをして現地での会場のお手伝い係として初めて参加した日本ジャンボリーでした。

主な仕事内容はバスや外来車の誘導をする「輸送部」と僕たちの居たサイトから離れたサブキャンプという場所の美化活動を行う「サブキャンプ」の二つの部署で務めました。最初の初日の二日間は、任務がなかったので退屈でした。しかし三日目からは暑さ暑さとの戦いになりました。

灼熱の太陽の下での、駐車場のバスストップです。暑さにノックダウンしてしまいそうでしたが、耐えました。ここで、へばってしまうとみんなに迷惑を掛けるので、他県からも来ている仲間と一緒に頑張っ、バスストップしました。休憩中の水分はまさに命でした。

1日終わるとみんなで食事です。今日あったことでみんなで盛り上がりました。そして、食事は皆、共同で作ってくれているので有り難かったです。味もとても美味しかったです。

任務をし終えて感じたことは、一日その業務をし終えた達成感です。他県の方と共に行動し、業務を行うので非常に楽しかったです。いつしかみんなも分かち合っ行き、絆が強まっいきました。実際大会を楽しむというよりは、違う意味で楽しめました。お手伝いはしんどいものですが、流れを掴むとスムーズに行き、その瞬間がなによりやっいて楽しい物でした。そして、このジャンボリーは僕たちよりも綿密なかつ計画的な業務のお陰で成り立っているんだと感じました。

今回あまり特別な交流などはしていませんが、とてもアクティブな充実した期間を業務を通じて過ごしたと実感しました。お手伝いとして行くのは実を言うとお楽しみでした。なので自然と、能動的になりました。自分はボランティアの精神が今回のISTで少し培われたと思うので、これからもお手伝いやボランティアを機会があれば続けたいと強く思いました。

16N J オーストラリア派遣団 in 豊中

《期間：前半7月27日～31日・後半8月8日～9日》

気温5度のオーストラリアから40名の派遣団が16NJ開催前に豊中に来ました。第21団の団本部「世界救世教箕面センター」に前半4泊5日滞在させて戴き、奈良・京都そしてUSJを観光後16NJに出発。

大会終了後にも1泊お世話になりました。豊中第21団の皆様、本当にお世話になりました。(国際 植村)



オーストラリア派遣団をおもてなし？

豊中第8団BS隊長 山本 裕

今年の夏は私にとって貴重な体験ができた夏でした。国際委員も兼務している私は、国際委員会でもオーストラリアから派遣団の受け入れの話があり、受け入れる21団の方々は大変だなあ。と少し人ごとのような感じでしたが(失礼な話ですが・・・)、それが、いつの間にか関空まで一人で迎えに行き、そのまま派遣団の乗るバスまで案内し、日本人は私と運転手のみというなんとも無謀な状況になっていました。

そのまま、21団の本部に到着後。深夜にもかかわらず出迎えてくれた植村国際委員長、ローさん夫婦、坂田親子、龍田21団委員長などの方々に会えて本当に安心しました。

数時間後には奈良観光に出発し、春日大社では、春日大社の皆様の配慮でガイドも手配して頂き、そのまま公式参拝もでき、そして奉納の舞も見れました。奈良公園・東大寺をまわり、ここでも、奈良15団の方々をはじめ、多くの方にお世話になりました。

そして、同行してくれた竹村さん、20団の末廣君の活躍で何とか役目を終え、そして難波での食事会。調子に乗って翌日の食事会にも会社帰りに江坂の東急ハンズ前で合流し、参加しました。

今回は貴重な経験でしたが、これは多くの方々の助けがあればこそです。

そしてオーストラリアの派遣団の皆様にも感謝しています。



この奉仕に参加しようと思った一番の理由は、自分の英語を試してみたい、と思ったからです。それまで自分は、英検や TOEIC など試験は受けてきましたが、実際にネイティブとしゃべったことはほとんどありませんでした。将来は外国での、または多言語にかかわる仕事がしたいと以前から思っていたので、この案内が来たとき、これは絶好のチャンスだと思いました。自分の話す英語が果たしてどこまで通用するのか、それが一番楽しみでした。

ただ、不安がなかったわけではありません。もし全く聞き取れなかったらどうしようか、と前日は気が気ではありませんでした。そして、不安は的中しました。当日にスカウトたちのいる宿舎に行ったとき、(日本ではない所に放り込まれてしまった!)とまず感じました。何しろ、そこには見渡す限り英語を話す人しかいないのですから。近づいていくと、彼らは制服で私のことを判別してくれたようで、話しかけてきてくれました。この時点で頭の中は真っ白でした。もう私はひたすら“hello.”と“Nice to meet you.”を繰り返すばかりでした。次に苦労したのが、彼らの名前を聞き取ることです。これは予想もなかった難題でした。全員がメジャーな名前であるはずもなく、聞いたことのない名前もたくさんありました。幸い、彼らは名札を付けていたので個人の識別は何とかできましたが。

さていよいよ出発です。一台の観光バスに、日本人はたったの 2 人、8 団の山本リーダーと私だけです。バスの中では主にリーダーがあれこれ私に質問してくださいました。自分からしゃべるのは、自分自身の性格も災いしてあまりうまくないので、質問されて答える、というだけの会話しか今回はできませんでした。途中、一度、どうしても聞き取れない部分がありました。申し訳ないなと思いつつも 4 回目ぐらいに聞き直したところ、日本語の英単語帳を出して指さしながら話してくださいました。これは本当にありがたかったです。ですが、もし逆の立場だったらどれだけわずらわしいだろう、と思うとやはり申し訳ない気分になりました。

今回印象に残っているのは、いちいち日本語から英語に直しては会話に間に合わない、ということです。たとえばバスの中、少し居眠りしていてふと目が覚めた時、車内の言葉を聞いていると、周りが話しているのは英語であるにもかかわらず、自分はその音を日本語として解釈しようとしていました。これは日本語脳と英語脳がきちんと入れ替わっていないからだと思います。英語を聴き、英語で話すには英語でものを考えなければいけない、ということを感じました。

話を元に戻します。奈良に到着して、まずは春日大社に向かいました。この日はやたらと英語表示が目につきます。ガイドの方と一緒にあちこちの名所を巡りました。一部行っていない場所もありましたが、大体は行ったことがある場所でした。それでも彼らにとっては珍しい建築ですから、全員ガイドの方の話を熱心に聞いていました。その後軽い昼食をとり、東大寺へ向かいます。彼らは楽しそうに談笑しながら、あちこちの写真を撮っていました。特に鹿にはよく触っていました。東大寺では大仏を見学し、集合写真を撮りました。

今度は大阪へ戻り夕食をとる居酒屋へ向かいました。途中、今後のルートを相談する時に、私は代表のリーダーの方と話をしました。ここではなんとか私の英語が通じたようで、とてもうれしかったです。居酒屋での私の役目は、「スカウトたちの注文をサポートすること」でした。ジュースを頼むのにはさほど苦労しませんでした。しかし、食材の名前を一部ど忘れしてかなり焦りました。食事が届き、満腹になると、なんとか自分の役目は果たせたようだ、と心が休まりました。

家に帰ってきたときには、登山からかえってきた時とは別種の疲労ですぐに寝てしまいました。今回の体験は一度も海外に行ったことのない私にとってあまりにも刺激的な体験で、しばらくはそのことばかり考えていました。今でも今年一番面白かったのは、この奈良旅行だったと思っています。このような機会を頂けて、本当に感謝しています。将来への思いを新たにして、これからも自らの英語を鍛えていきたいと思っています。

地区の主な活動（平成25年5月～平成25年11月）

●ビーバーランド 平成25年5月19日(日) ふれあい緑地

升田副コミッショナー

スカウトと見学者合わせて107名、幼児16名、指導者51名、保護者30名も合わせて、総勢204名の参加がありました。「ヒーローになろう！」というテーマで、各団の担当者が趣向を凝らした10箇所のゲームコーナーを巡るシールラリーを行ないました。その内容は、①ブーメラン、②キムス、③くつ飛ばし、④缶つり、⑤大縄跳び、⑥ロープくぐり、⑦ロープ渡り、⑧宝さがし、⑨コロコロ爆弾、⑩スピード走、です。

「時間内に回れるところだけ回りましょう」という予定でしたが、最後のヒーロー認定スタンプをもらうため、すべてのコーナーを回りたいとの希望がスカウト達から出たので、時間を延長して、全員がすべてのコーナーを体験できるようにしました。

毎年雨などの理由で延期されることが多いビーバーランドですが、今年は終わりのセレモニーの途中からポツポツと水滴が落ち始めましたが、無事終了することができました。



●わっぱル「ワークキャンプ」 平成25年9月7日(土)～8日(日) わっぱる

奉仕参加者：橋本直樹(T5VS) 山本裕(T8L) 坂田成実(T12VS)

井元良美(T14 団委員長) 井元一梅(T14 団委員)

報告 豊中第12団 VS 坂田成実

豊中地区、大阪連盟が使わせていただいている、豊中市営の少年自然の家わっぱるへ、ワークキャンプにいってきました。

キャンプ場を整備する奉仕キャンプです。夏のキャンプのために建てたテントの片付けや、プールの掃除、ペンキ塗りなど…雨の中がんばりました！20張も家テン畳むなんて、初体験(笑)。ボーイの参加がとても少ないです！MAX 5人でした…お世話になっているキャンプ場、もっとみんなで綺麗にできたらな…



●スカウトの日 平成25年9月16日(月・祝)

真嶋建志行事委員長

全国の加盟団・隊のスカウト・指導者が地域社会への奉仕活動をはじめ、さまざまなスカウト活動を全国の各地域において一斉に展開し、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献するとともに、スカウト運動が地域社会に根ざした実践活動であることを広く社会にアピールすることを目的に、毎年9月第3月曜日(祝日＝敬老の日)「スカウトの日」を実施しています。

今年は、9月16日に実施されました。豊中地区では環境保全・環境美化の活動や社会奉仕活動(敬老の集いでの奉仕)が行われ、2, 3, 4, 5, 6, 8, 14, 16, 17, 18, 20, 22団の11ヶ団、合計407名が参加しました。環境美化の活動では、空き缶172個・ペットボトル137個が集められました。

来年も多くの団・多くのスカウトが参加して頂きます様、お願い申し上げます。

平成25年10月27日(日)開催されました。豊中地区は、午前9時より午後4時頃まで地下鉄南港ポートタウン線住之江公園駅付近から平林駅間のコース(沿道)整理の奉仕を行いました。

奉仕者は下記のスカウト18名、指導者11名、合計29名です。

スカウト: 下村亮太・川辺隆彰(2)、福永和樹(4)、橋本直樹(5)、津嶋武・袖川由香里(6)、
関野昂八(7)、常田陽介(14)、森真由美・大藪梓(16)、馬場祐輔・関野文人(20)、
住友昂志・小松大輝・高井華緒・水口悟志・品川遼太・三俣真悠(22)

指導者: 高橋孝之(2)、高木尚子(3)、真嶋建志・大宮隆尚(4)、矢野隆一・津嶋真(6)、
石山元三(7)、梶浦高義(12)、西河市郎(21)、澤恭子・森脇康夫(22)

参加スカウトの感想

大阪マラソンの奉仕に参加して…

豊中22団 水口

今回大阪マラソンの奉仕へ行き色々感じるがありました。その中でも特に感じる事ができたのが目的に向かう熱い心です。大阪マラソンで見た人全員が制限時間ぎりぎりまで走っていました。たとえ遅れていても途中で投げ出さずに走る姿を見て私は感動しました。私は昔から途中で投げ出しがちでよく3日坊主といわれていました。だから今回近くで見ることができてよかったです。これからもランナーのように途中であきらめず頑張ろうと思います

『大阪マラソン奉仕に参加して』

豊中5団 VS 橋本 直樹

平成25年10月27日(日)、『第3回大阪マラソン』奉仕に参加しました。朝9時スタートで15時ぐらいまで沿道を警備しました。僕は、沿道を警備しました。最初は車いすのランナーが来てとてもすごいと思いました。すごく速かったです。次々とランナーが駆け抜けていきランナーの息遣いを間近に感じる事が出来ました。中には、着ぐるみをきているランナーもいました。

トップランナーは、約2時間ちょっとでゴールしますが遅いランナーは、15時を超えてでも走っています。でも制限時間があり、時間内に門を通過できない人は失格となり、バスでゴールに行くことになりました。自力でゴール出来ないのは、残念なことだろうと思いました。交通規制も行っているのです仕方ないのかとも思いました。

朝9時から15時頃まで長時間でしたが次々とランナーがくるのでそれほど長い時間には感じませんでした。ランナーが一生懸命に走っている姿を近くでみる事が出来て良かったです。

スカウトの進歩

菊スカウト章取得状況 (平成25年4月1日～25年10月8日まで) (順不同)

蜂谷 桃果	豊中 17	吉田 健人	豊中 1
井上 大雅	豊中 3	荒木 手毬	豊中 4
木村 友歌子	豊中 4	岡本 健太郎	豊中 12
住友 柁志	豊中 22		

技能章取得状況 (平成25年4月1日～25年9月30日まで) (順不同)

3.救急章

伊藤 正照	豊中 22	高田 夕輝	豊中 22
中西 大和	豊中 2	下村 蛭輔	豊中 2
下村 亮太	豊中 2	川辺 隆彰	豊中 2
野口 真史	豊中 5	橋本 直樹	豊中 5
杉本 健人	豊中 5	宮本 司	豊中 5
狩谷 将太	豊中 16	ジャスティン ロー	豊中 4
大嶋 英生	豊中 4		

4.炊事章

塩田 タオ	豊中 5	池田 達也	豊中 5
津嶋 武	豊中 6	遠藤 匠	豊中 8
中津 せりな	豊中 20	関野 文人	豊中 20
伊藤 正照	豊中 22	乗松 祐樹	豊中 14
和田 みちる	豊中 22	西本 遼輔	豊中 22
中西 大和	豊中 2		

5.水泳章

ジャスティン ロー	豊中 4	乗松 祐樹	豊中 14
中西 正和	豊中 20	井内 崇人	豊中 22
大田 康平	豊中 2	武田 昌憲	豊中 3

8.介護章

植田 優父太	豊中 5
--------	------

16.茶道章

荻原 翼	豊中 1	吉田 健人	豊中 1
品川 遼太	豊中 22		

29.環境衛生章

荻原 翼	豊中 1
------	------

36.消防章

荻原 翼	豊中 1	袖川 友香里	豊中 6
中内 辰之介	豊中 16	狩谷 将太	豊中 16
和田 みちる	豊中 22	川口 諒	豊中 22
井上 大雅	豊中 3	井上 竜也	豊中 3
大田 康平	豊中 2	中西 大和	豊中 2
増田 敦士	豊中 8	津嶋 武	豊中 6
遠藤 匠	豊中 8		

第34回青少年団体指導者交流会

豊中第8団BS隊長 山本 裕

～私たちにも出来る事がある!!被災地から～ 期間 2013年10月11日夜～14日朝まで
今年のわっぱるのワークキャンプで一緒させていただいた野教の方からのお話もあり、今年の交流会に参加し、岩手県大槌町に往復バスで参加しました。

テレビでも話題になることも少なくなり、阪神淡路大震災でも数年経てば関心が薄れていった事もあり、私も”あまり復興が進んでいないかも?”との思いで参加しました。

残念ながら、私の想像を超えて復興の道が遠く感じました。いろんな方の話も聞かせていただきました。この事は、ただ支援に行くだけではなく現地の声を聞いて本当に良かったと思います。

- ・町長を含め、町職員の大半が津波で亡くなり、その後の震災対応に遅れが出た事。
- ・なかなか町全体の意見がまとまらず、苦勞している事。
- ・商業地の98%が津波で流され、町の産業がなかなか復興しない事。
- ・復興のための建設業の方々が、東京オリンピックや消費税が上がる前の建築ラッシュで被災地を離れていき、資材も少なくなっている事。などなど

今回は、避難経路の看板立て、小学校の資料整理、菜の花プロジェクトなどの作業をしました。

今回、豊中市青少年団体の皆様にお世話になり、特に実行委員の皆様、豊中市青少年課の皆様には感謝しております。

他にも一緒させていただいた豊中4団西村さん、豊中市青少年野外活動協会、ガールスカウト豊中地区協議会、豊中市スポーツ少年団、豊中市青少年勤労グループ杉の実会、豊中市青少年吹奏楽団の方々と一緒できて感謝しております。

これから数年間の交流会の連続企画なので、ぜひ次回も参加したいと思います。
スカウト関係者の皆様、一緒に参加しましょう。



豊中第4団活動報告



団炊事ハイク

6月

王子動物園



中山ハイク



老人ホーム

7月

ひらパー



芦屋マリンセンター



西稲名公園



月の輪：わっぱる



組集会

萩の寺



8月

ボーイ@徳島



ビーバー@南但馬



カブ@兔和野



9月

上野小学校



4団クイズ

- ☆ 9月のボーイスカウト祭りで食べたのは何？
- ☆ 10月、ボーイ隊のサイクリングで何を食べた？
- ☆ 11月、カブ隊は大阪市内ハイク。ビーバー隊は〇〇〇狩り。

豊中



12団



上進式



木工に挑戦 「本立て」 作りました



五月山ハイキング



救命救急訓練で心肺蘇生の訓練



教会フェスタでキャンプカレー販売

いちよん活動ダイジェスト

発団 45 周年記念式典

11月3日 14 団山辺キャンプ場



記念チーフリング



ご来賓の方々と談笑する団委員長

ローバー隊活動報告

①5月GW

雪山登山&幕営訓練
in 北アルプス穂高連峰

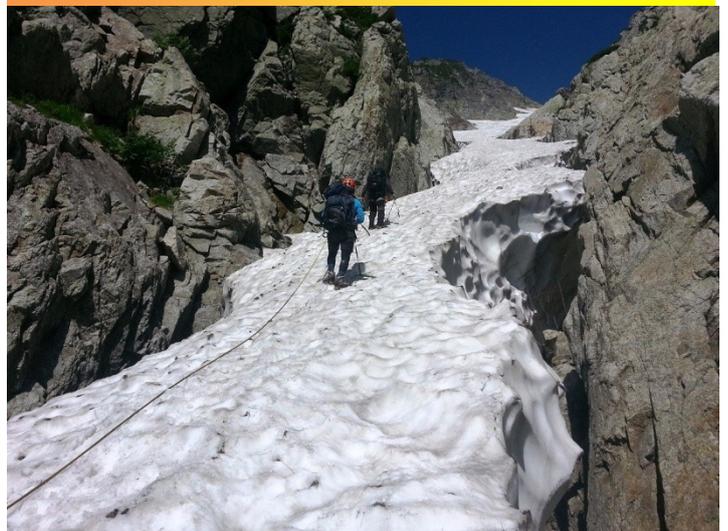


②8月

北アルプス剋岳
バリエーションルート
登攀(長次郎雪溪)



RSによるパフォーマンス



千里キャンドルロードに参加しました



豊中17団かわら版

【 2013-14年度 号外! 】



17団は、いつもみんなと一緒に活動するのが大好き!! (40周年記念式典：箕面教学の森)

＝ 団体制 ＝

- 団委員長 : 古川康治
- BVS隊 : 井上隊長、スカウト 8名
- CS隊 : 片岡隊長、スカウト 18名
- BS隊 : 田中隊長、スカウト 14名
- VS隊 : 高矢隊長、スカウト 3名
- RV隊 : 澤田隊長、スカウト 3名

ボーイ隊は、豊中市近隣でのキャンプ、六甲山にハイキングに良く行きます。



＝ 在住地区 ＝

- 緑丘地区、北緑丘地区、桜井谷地区
- ・ 小学校 (北緑丘、少路、野畑、桜井谷東)
 - ・ 中学校 (第2、11, 14)

＝ 活動拠点 ＝

緑丘会館を主な集合場所、備品保管をしております。ビーバー隊、カブ隊は、清谷池公園で花壇整備、集会をします。

＝ 主な活動予定 ＝

- 1月 凧上げ・餅つき、耐寒登山
- 2月 スキー訓練
- 3月 各隊集会、ハイキング
- 4月 募金活動、キャンプ
- 5月 隊集会
- 6月 蛍ハイク、キャンプ
- 7月 隊キャンプ
- 8月 団キャンプ



17団を見に来てね!!!

第1話



豊中第22団 『母の会』

「母の会」は昭和53年に2団から22団分封する以前から有りました。

隊費が少ないので、その補いのために古新聞をみんなで集め、リヤカーを引張って隊活動を兼ねながら資金作りをしていました。そのうちに団の運営費を工面するためにお母様様が立ち上がり、バザーを始めました。バザーを重ねるうちに、自然の成り行きで「母の会」ができました。22団発団後も「母の会」は引き継がれ今日に至っています。

バザーをすることは大変なことです。が、団運営費を工面するだけでなく、お母様同志の親睦の場になり、話し合いの輪がひろがり、組・班の中のお母様だけでなく、年齢を乗り越えたお母様とのつながりが出来るようになりました。

(育成会長 黒田一男)

「母の会」は、現在もスカウトの保護者が力を合わせて、子ども達の活動資金をためるために、協力し合っています。お母さん同士、子育ての悩みを相談しあったり、コミュニケーション作りの場にもなっています。私は今年度から新しく母の会代表として団委員をさせていただいておりますが、お母さん達がどれだけ子ども達のために頑張っておられるかがよくわかりました。

デンリーダーとして子ども達とかかわることも楽しく貴重な体験でしたが、母の会代表として、裏方の仕事にもやりがいを感じ、良い経験をさせていただいていると思います。

(H25年度「母の会」代表 高田 芽衣子)

※平成25年11月2日 緑地公園での「母の会」フリーマーケット出店の様子です。



「母の会」は、保護者のお母様が中心となって、バザーやスカウト祭、また地域行事での夜店出店や団行事での食事作り等、資金工面だけでなく、団行事の助っ人としても色々な場面でご協力をいただいています。またバザー等で得た資金は、「スキーバス」の補助や各隊夏季行事の補助として寄付をいただいています。ジャンボリー等の派遣時にも補助をお願いしており、スカウトを抱える保護者の家庭にも、有難い存在です。まさに「母の会」は22団を縁の下から支えていただいている力持ちさんです。

ただ・・・「母の会」ですから、男性はお断りです。フリーマーケットや夜店で22団「母の会」メンバーを見かけられたら、ぜひお声かけと共に、販売にご協力を宜しくお願いします。

(団委員長 植村 美代子)

日本ボーイスカウト大阪連盟豊中地区

事務局 〒561-0858 豊中市服部西町4-13-1

豊中市立青年の家 いぶき 内

地区協議会長 花木 一夫 地区委員長 前田 栄子